

## クールアース・デーにはみんなで地産地消を考えてみましょう

地域で生産された農産物を地域で消費する「**地産地消**」の取組は、地域の生産者と消費者を結びつけるもので、食料自給率の向上や地域農業の振興に役立つほか、食料の輸送距離を縮め、輸送に伴う二酸化炭素の排出量の抑制にも寄与する取組です。

クールアース・デー(7月7日)を中心に、直売所等で地産地消の取組を改めてPRする、学校給食、社員食堂、小売店等で地場農産物や地場農産物を使用したメニューなどを紹介する、などに可能な範囲で取り組んで頂き地産地消を考える機会にしましょう。

### 取 組 例

#### 直売所等における 地産地消の意義等のPR



#### 学校給食での地場食材の校内 放送や、担任の先生からの紹介



#### 小売店等における店内放送やP OP等による地場農産物の紹介

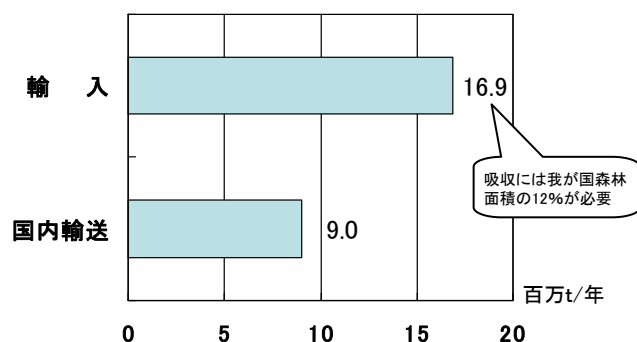


## 「地産地消」は、地球温暖化の抑制にも寄与します

食料の輸送に伴う温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量の試算によると、輸入に要した輸送に伴う二酸化炭素の排出量は、国内輸送の約2倍とされています。

「**地産地消**」の取組により、地域で生産された農産物を地域で消費する動きが広がれば、食料輸入の減少により二酸化炭素の排出が抑えられ、地球温暖化の抑制にも寄与すると期待されます。

### 食料の輸送に伴う二酸化炭素の排出量の推計(試算)



資料: 中田哲也「食料の総輸入量・距離(フード・マイレージ)とその環境に及ぼす負荷に関する考察」(農林政策研究所「農林水産政策研究第5号(2003)」)を基に農林水産省で作成。

(出典:「平成18年度 食料・農業・農村の動向」)